



Sotto シンポジウム

今年度のSottoシンポジウムの開催が12月23日(金・祝)に決定しました。Sottoでは、たくさんの方に私たちの活動を知ってもらい、自死について考えるきっかけになることを願って、毎年シンポジウムを行っています。Twitterを用いてリアルタイムで参加者の質問を受け付けるなど、登壇者と参加者が一緒になって、みんなで考えるシンポジウムになるよう工夫をしているのも特徴の一つです。

今年度のシンポジウムのテーマは昨年度に続き「若者」です。登壇者は、精神科医の松本俊彦さん、若者支援を主宰しているBONDプロジェクトの橘ジュンさん、当センター代表の竹本了悟の三人がパネリスト、Sottoを長年にわたって取材してくださっている毎日新聞記者の玉木達也さんがコーディネーターです。特に松本さんと橘さんは、死にたい気持ちを抱える若者たちと、直接、関わりを持ってこられた方です。死にたい気持ちを抱える若者とどのように関わるのが大切なのか、当日会場にお越し下さった皆様と一緒に深く考える時間になれば幸いです。

Sotto シンポジウム「自死・自殺に本気で向きあう」

日時：2016年12月23日(金・祝)

会場：京都産業大学 むすびわざ館(京都市下京区)

パネリスト：松本俊彦(精神科医)、橘ジュン(BONDプロジェクト)

竹本了悟(Sotto代表)

コーディネーター：玉木達也(毎日新聞記者)

※登壇者の詳細紹介は次頁に掲載

Sotto シンポジウム——登壇者紹介（敬称略・順不同）



松本 俊彦

国立研究開発法人 国立精神・神経医療研究センター 精神保健研究所 薬物依存研究部 部長。1993年佐賀医科大学医学部卒業後、国立横浜病院精神科、神奈川県立精神医療センター、横浜市立大学医学部附属病院精神科などを経て、2015年より現職。日本アルコール・アディクション医学会理事、日本精神科救急学会理事、日本青年期精神療学会理事。主著として、『自分を傷つけずにはいられない～自傷から回復するためのヒント』（講談社,2015）、『もしも「死にたい」と言われたら—自殺リスクの評価と対応』（中外医学社,2015）など。

橘ジュン

NPO 法人 BOND プロジェクト代表、ルポライター。2006年、パートナーのカメラマン KEN と共に、街頭の女の子の声を伝えるフリーマガジン VOICES を創刊。2009年、10代20代の生きづらさを抱える女の子を支える NPO 法人 BOND プロジェクトを設立。これまで少女たちを中心に 3,000人以上に声をかけ、聞いて、伝えつづけてきた。著書に『漂流少女～夜の街に居場所を求めて～』（太郎次郎社エディタス）『最下層女子高生～無関心社会の罪～』（小学館新書）がある。



玉木 達也

毎日新聞高松支局長。1990年4月、毎日新聞入社。富山、京都支局、大阪社会部などを経て2004年4月から3年間、東京社会部で厚生労働省を担当。自殺問題に積極的に取り組み、自殺対策基本法（2006年6月に成立）の制定に向け、キャンペーン的な報道を展開した。2014年10月から現職。改正自殺対策基本法が施行された2016年4月から全国の自殺対策に取り組む人々を紹介する連載「つなぐ」を香川面で週1回、執筆している。

とうほく Sotto

9月10・11日、WHOの定める「世界自殺予防デー」と内閣府の定める「自殺予防週間」にあわせて、「東北自死・自殺相談センターとうほく Sotto」の設立イベントが開催されました。10日のミニシンポジウムでは、とうほく Sottoの代表の高橋悦堂さん、東北でグリーフケアの活動に携わっておられるNPO法人グリーフケア研究所理事長で精神科医の滑川明男さん、カトリック協会の社会事業を担うカリタスジャパンで自死に関する課題を担っておられる喜代永文子さんがパネリストとして、京都 Sotto 代表の竹本がコーディネーターとして登壇しました。

テーマは「死にたい気持ちを抱えた人と共に歩む」。対話の中では、いのちとは何か、死とは何か、生きるとは何か、なぜ死んではいけないのか、なぜ生きなければならないのか、といった基本姿勢を考える上で重要な内容や、それぞれの具体的な経験を紹介していただきながら、死にたい気持ちを抱えた方の苦悩を和らげるために、どのような関わりができるのか、といったことについて、真剣な対話がなされました。参加者のアンケートから一部抜粋して感想を紹介します。

- 苦悩している人の感情・心に寄り添うには、人間と人間の情のやりとりの方が寄り添うときの支えになるのかと思いました。
- 相談できる場所が増えることは心強いです。まずはじっくり話を聞いてくれる…そんな人との関わりがもう少し生きてみようかな…につながっていくと思います。
- 肩書ではない私が、肩書ではないあなたが居ようとする。悦堂さんのお話が印象に残っています。必ず東北のためになる活動だと思っています。

翌11日のワークショップでは、「死にたいほどの苦悩を抱えた方に寄り添うとは」というテーマで、様々なワークを行い、具体的な関わり方についての気づきを深めました。

同じ姿勢を大切に活動してくださる仲間が、東北にできたことに、大きな心強さを感じています。これから、自死の苦悩を抱えた方の心の居場所づくりに、共に取り組んで参りたいと思います。

(代表 竹本了悟)

今月のことば

わたしの かたわらにたち わたしをみる 美しくみる

(八木重吉「美しくみる」『貧しき信徒』)

活動報告

- 9月期電話相談件数…225件（無言47件、よりそいホットライン担当63件を含む）
- 電話相談委員会 … グループ研修9月15日 15名
- 9月期メール相談件数 … 受信件数116件 送信件数93件
- メール相談委員会 … グループ研修9月8日 4名、9月28日 3名
委員会会議9月28日 8名
- 居場所づくり委員会 … 委員会会議9月27日 8名
おでんの会“食事の場”10月5日 13名
- 広報・発信委員会 … 委員会会議9月22日 5名

寄付ご協力一覧（敬称略・順不同） 2016年9月1日～30日 受付分

ご協力にこころより感謝いたします

浄土真宗本願寺派

株式会社エクザム

葛野洋明

荻野昭裕

株式会社トゥエルブワールド

永江武雄

武田慶之

霍野廣由

上毛組仏教婦人会

出雲市・明圓寺（寄藤信子）



お詫びと訂正

「Sotto」Vol.59 3月号寄付ご協力一覧中に誤りがありました。不手際を深くお詫び申し上げます。下記の通り訂正いたします。

（誤）「菅野久美」→（正）「菅野久美」様

Sotto コメント

やっと秋らしい気候になりました。実りの季節、果物が美味しいです。今年はみかんが美味しいそう。楽しみです。（N.Y.）

発行 2016年10月

特定非営利活動法人 京都自死・自殺相談センター事務局
〒600-8349 京都市下京区西中筋通花屋町下ル堺町 92

T E L 075-365-1600

U R L <http://www.kyoto-jsc.jp>

E-mail so-dan@kyoto-jsc.jp